

IM-ContentsSearch for ISP

Ver.7.0

セットアップガイド

2009/09/30 初版

<< 変更履歴 >>

変更年月日	変更内容
2009/09/30	初版

<< 目次 >>

1	はじめに.....	1
1.1	用語解説.....	1
1.2	前提条件.....	1
1.3	インストール対象モジュール.....	2
2	インストール.....	3
2.1	インストーラの起動と操作.....	3
2.2	インストール.....	4
2.2.1	注意事項.....	4
2.2.2	インストール手順.....	4
2.3	WebApplication Serverへの登録.....	7
3	初期設定.....	8
3.1	初期データの登録.....	8
3.1.1	SQLファイルのインポート.....	8
3.1.2	バッチ設定のインポート.....	8
3.2	初期設定値の設定.....	8
3.3	全文検索 検索オプションの設定(任意).....	10
3.3.1	設定方法.....	10

1 はじめに

本ドキュメントは、IM-ContentsSearch for ISP のセットアップ手順について記述しています。

1.1 用語解説

IM-ContentsSearch for ISP	以下、ispCS と略します。
intra-mart イン트라ネット・スタートパック	以下、ISP と略します。
intra-mart WebPlatform／AppFramework	以下、IWP／AFW と略します。
intra-mart WebPlatform	以下、IWP と略します。
intra-mart AppFramework	以下、AFW と略します。
intra-mart Server Manager	システム全体を管理するサーバです。 以下、imSM と略します。

1.2 前提条件

ispCS をインストールするには以下の前提条件があります。

- IWP／AFW ver7.1 のインストールが完了していること。
- IWP／AFW ver7.1 最新の patch (2009/09/30 時点では patch01) のインストールが完了していること。
- ISP ver7.0 のインストールが完了していること。
- ISP ver7.0 最新の patch (2009/09/30 時点では patch03) のインストールが完了していること。

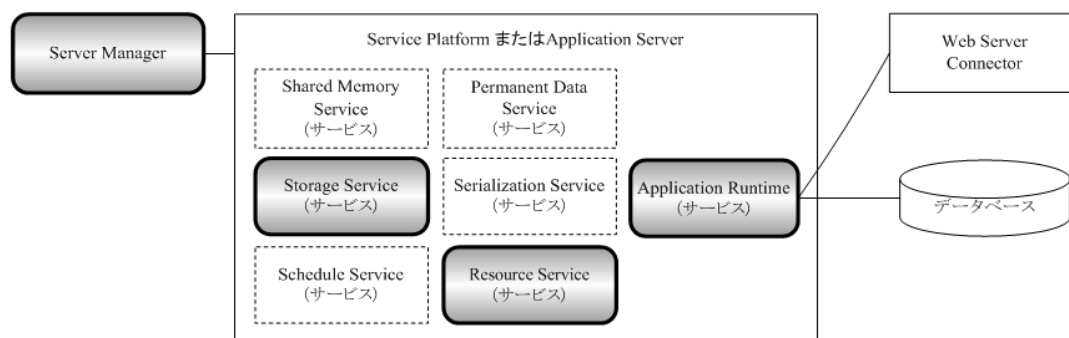
本製品をご利用になられる環境についても、事前に把握した上でインストールを開始してください。
インストールに際しては、下記の事項に関して事前にチェックすることを推奨します。

- IWP／AFW サーバの構成
- IWP／AFW をインストールしたディレクトリ
- Application Runtime のコンテキストルート(標準は doc/imart)
- Resource Service のプログラムディレクトリ(標準は pages)
- StoregeService のコンテンツディレクトリ(標準は storage)

ispCS が動作するには以下の前提条件があります。

- IM_ContentsSearch のセットアップが完了し、正常に動作していること
IM_ContentsSearch のセットアップについての詳細は、「IM_ContentsSearch セットアップガイド」をご覧ください。

1.3 インストール対象モジュール



ispCS は、以下のモジュールに対してインストールを行います。

- intra-mart Server Manager
- Application Runtime
- Resource Service
- Storage Service

2 インストール

2.1 インストーラの起動と操作

インストーラの起動および操作は以下のように行います。

■ Windows の場合

- (1) `java.exe` コマンドにパスが通っていることを確認します。
- (2) エクスプローラで本製品の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
- (3) `install` ディレクトリへ移動します。
- (4) `setup_isp_cs.jar` をダブルクリックし起動します。
- (5) インストーラの画面が表示されます。
- (6) 画面の設定項目を設定して、[Next]ボタンを押します。以下同様
- (7) 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ[OK]ボタンを押します。
(間違っていた場合は、[Prev]ボタンで戻り、設定し直してください)
- (8) インストールが開始されます。

■ Solaris 、Linux の場合

- (1) `java` コマンドにパスが通っていることを確認します。
- (2) コンソール画面で本製品の CD-ROM があるディレクトリに移動します。
- (3) `install` ディレクトリへ移動します。
- (4) コンソールから `java -jar ./ setup_isp_cs.jar` と入力します。
- (5) インストーラの画面が表示されます。
- (6) 画面の設定項目を設定して、[Next]ボタンを押します。以下同様
- (7) 最後に設定項目一覧が表示されます。その設定でよろしければ[OK]ボタンを押します。
(間違っていた場合は、[Prev]ボタンで戻り、設定し直してください)
- (8) インストールが開始されます。

なお、Solaris および Linux では、Xwindow が起動しているマシンでインストールする場合だけ、インストーラのウインドウが表示されます。

Xwindow が起動していない場合、コンソールでの対話形式でインストールを行います。

2.2 インストール

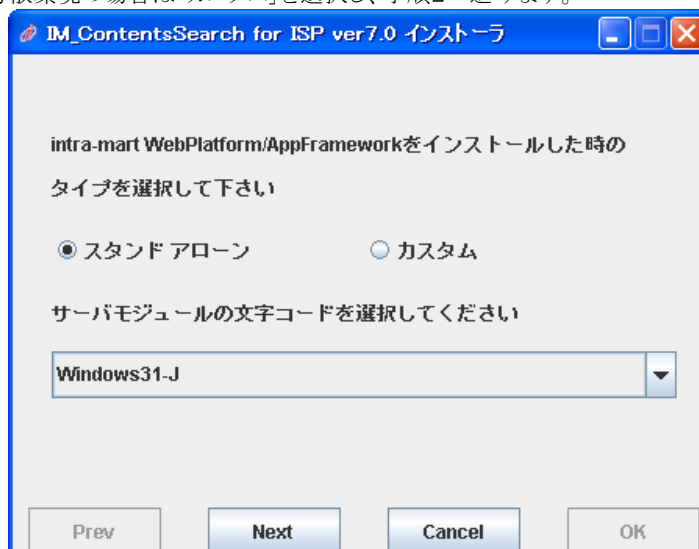
2.2.1 注意事項

- インストール時は、intra-mart のすべてのサーバ・モジュールを停止してください。
(WebPlatform[JBoss]および AppFramework の場合は、ご利用の Web アプリケーションサーバ製品も停止してください)
- WebPlatform[JBoss]および AppFramework をご利用の場合、インストールする前にご利用の Web アプリケーションサーバ製品より、アンデプロイ処理を行ってください。
先にインストールを行うと、次回起動時にバージョン情報の相違から次回起動時にバージョン情報の相違から、サーバが起動しない場合があります。必ずアンデプロイ処理を行ってください。

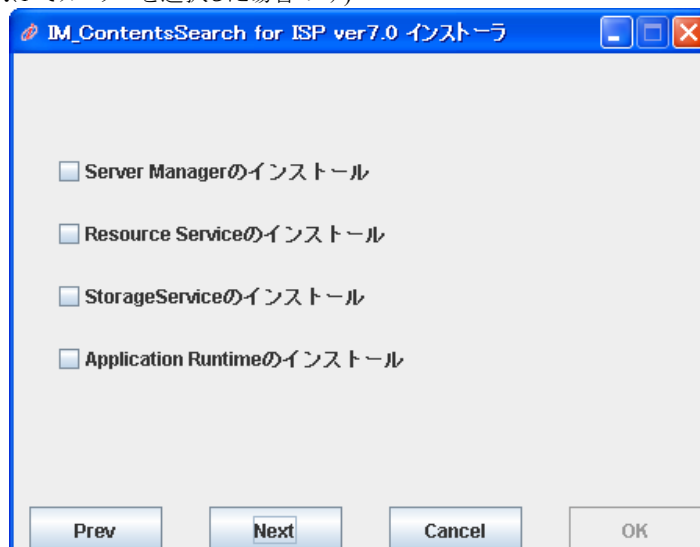
2.2.2 インストール手順

以下の手順でインストールを行います。

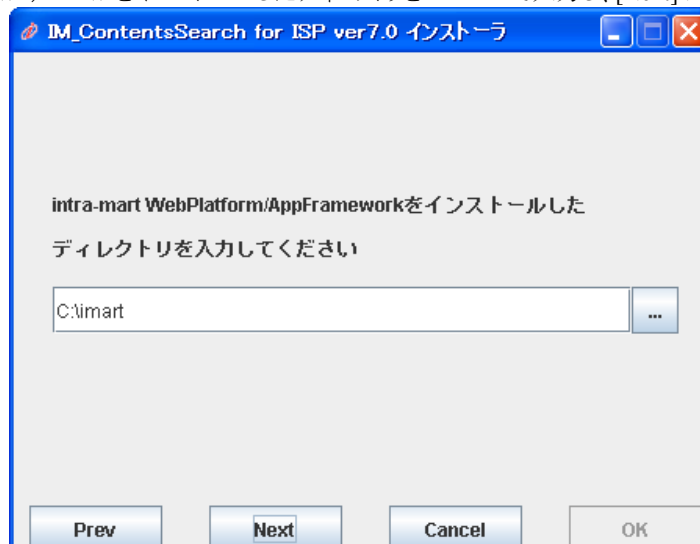
1. IWP/AFW をインストールした時のタイプとサーバモジュールの文字コードを選択して、[Next]ボタンをクリックします。
サーバモジュールの構成がスタンドアロン環境の場合は「スタンドアロン」を選択し、手順3へ分散環境の場合は「カスタム」を選択し、手順2へ進みます。



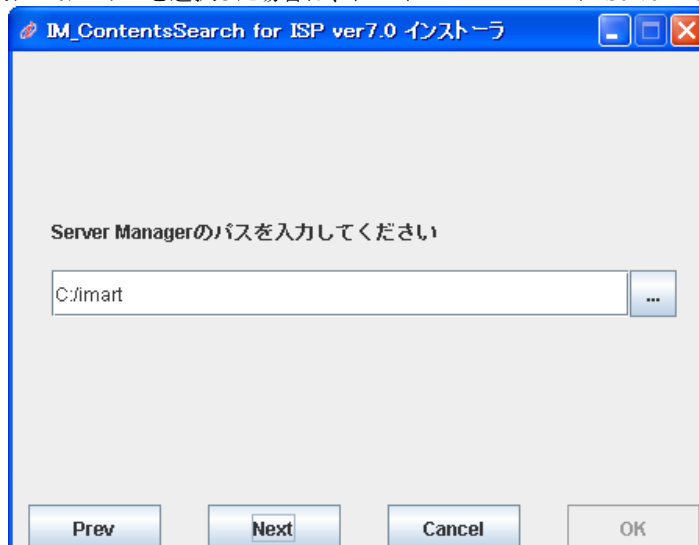
2. インストールするモジュールを選択して[Next]ボタンをクリックします。
(※1 でカスタムを選択した場合のみ)



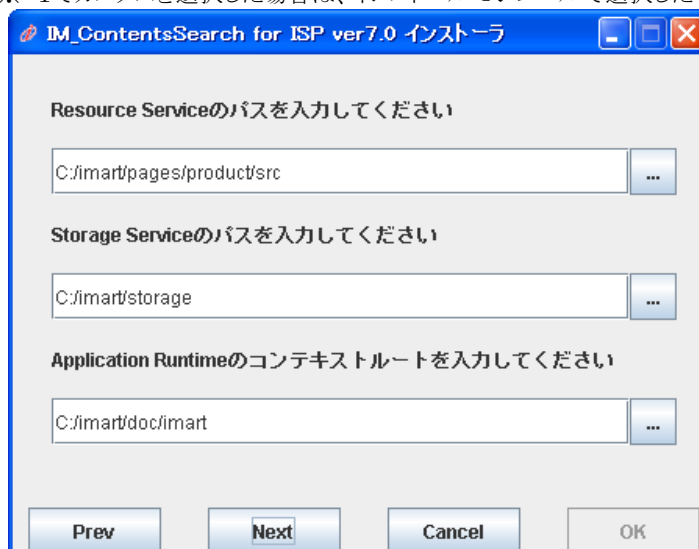
3. IWP／AFW をインストールしたディレクトリをフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。



4. imSM をインストールしたディレクトリをフルパスで入力し、[Next]ボタンをクリックします。
(※ 1でカスタムを選択した場合は、インストールモジュールに Server Manager を選択した場合のみ)



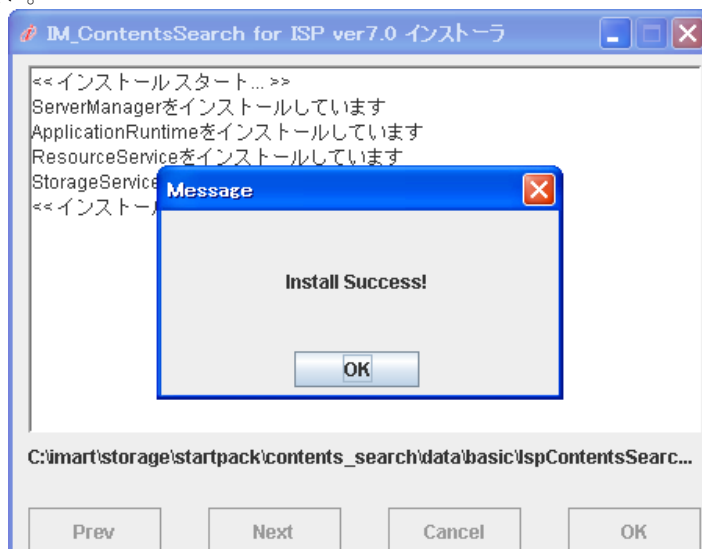
5. Resource Service, Storage Service をインストールしたディレクトリ、Application Runtime のコンテキストルートを入力し、[Next]ボタンをクリックします。
(※ 1でカスタムを選択した場合は、インストールモジュールで選択したモジュールのみ)



6. 設定した内容を確認して間違いがなければ[OK]ボタンをクリックして下さい。インストールが開始されます。



7. インストールが完了するとダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックしインストーラを終了して下さい。



2.3 WebApplication Server への登録

WebPlatform[JBoss]および AppFramework の場合は、必ずデプロイ処理を行ってください。

デプロイ方法等については、製品本体に同梱される「intra-mart WebPlatform セットアップガイド」および「intra-mart AppFramework セットアップガイド」をご確認ください

3 初期設定

3.1 初期データの登録

ispCS が動作する際に必要な基本データ(パッチ設定、区分コード値)を**ログイングループ毎**に登録します。

3.1.1 SQLファイルのインポート

システム管理者でログインを行い、メニュー[データベース操作] ツールバー[SQL ファイルインポート]で SQL ファイルに下記のファイルを選択し、ファイルのインポートを行います。

startpack/contents_search/data/basic/IspContentsSearchInsert.sql

3.1.2 バッチ設定のインポート

グループ管理者でログインを行い、メニュー[ログイングループ管理]-[アクセスセキュリティ情報入出力]-[インポート]画面でインポートを行います。

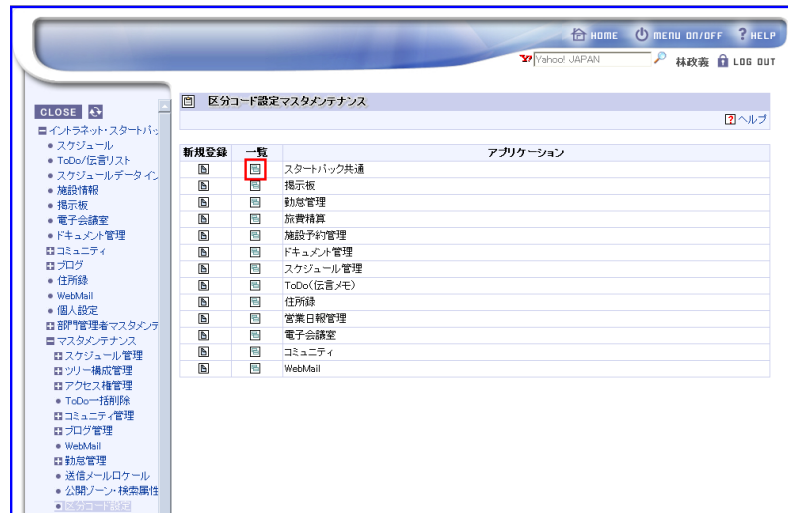
項目	バッチにチェック
カテゴリ	standard (デフォルト)
ファイル	startpack/contents_search/data/basic/ isp-content-search-batch.xml

3.2 初期設定値の設定

ispCS では、メニュー[マスタメンテナンス]-[区分コード設定] 「スタートバック共通」の[区分コード一覧]画面で、以下の項目の初期設定値を設定します。

項目名称	初期値	説明
crawling_date_initial_bulletin	2008/09/01	掲示板クロウラのデータ取得開始日です。 yyyy/MM/dd 形式で指定します。
re-indexing_limit_bulletin	0	掲示板_再作成クロウラの再作成範囲月数です。 n ヶ月形式で指定します。 n=0 の場合は全インデックスが再作成対象、n >=1 の場合は [クロウラ実行日 -n ヶ月] 以降の更新日を持つ掲示板情報が基本的に再作成の対象となります。 例) 設定値が1、クロウラ実行日が 2009/10/01 の場合 更新日 2009/09/01 以降のインデックスが再作成の対象
crawling_date_initial_conference	2008/09/01	電子会議室クロウラのデータ取得開始日です。
re-indexing_limit_conference	0	電子会議室_再作成クロウラの再作成範囲です。
crawling_date_initial_document	2008/09/01	ドキュメント管理クロウラのデータ取得開始日です。
re-indexing_limit_document	0	ドキュメント管理_再作成クロウラの再作成範囲です。
crawling_date_initial_schedule	2008/09/01	スケジュールクロウラのデータ取得開始日です。

re-indexing_limit_schedule	0	スケジュール_再作成クローラの再作成範囲です。
crawling_date_initial_blog	2008/09/01	ブログ記事クローラのデータ取得開始日です。
re-indexing_limit_blog	0	ブログ記事_再作成クローラの再作成範囲です。
crawling_date_initial_daily	2008/09/01	営業日報クローラのデータ取得開始日です。
re-indexing_limit_daily	0	営業日報_再作成クローラの再作成範囲です。



[区分コード設定]画面



[区分コード一覧]画面

3.3 全文検索 検索オプションの設定(任意)

[全文検索]画面の検索オプションの種別コンボに表示される種別に、ispCS 対象機能の任意の機能を追加することができます。 初期状態は種別「スタートパック」のみが登録されています。

[全文検索] 検索オプション画面

3.3.1 設定方法

imSM/conf/ solr-display-config_isp.xml を編集します。

種別に追加する機能の<document-type>タグ内の<display-combo>の値を **false** から **true** に変更します。

```
<display-combo>true</display-combo>
```

この設定はログイングループ共通の設定になりますので、ご注意ください。

機能	document-type id
掲示板	isp_bulletin
電子会議室	isp_conference
ドキュメント管理	isp_document
スケジュール	isp_schedule
ブログ記事	isp_blog
営業日報	isp_daily

IM-ContentsSearch for ISP Ver. 7.0
セットアップガイド

2009/09/30 初版

Copyright 2000-2009 株式会社 NTT データ イントラマート
All rights Reserved.

TEL: 03-5549-2821

FAX: 03-5549-2816

E-MAIL: info@intra-mart.jp

URL: <http://www.intra-mart.jp/>